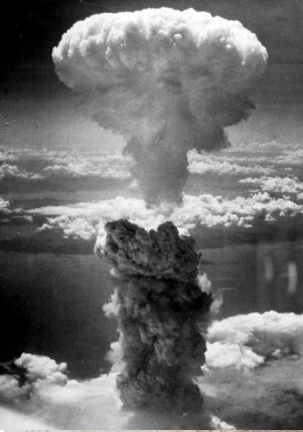
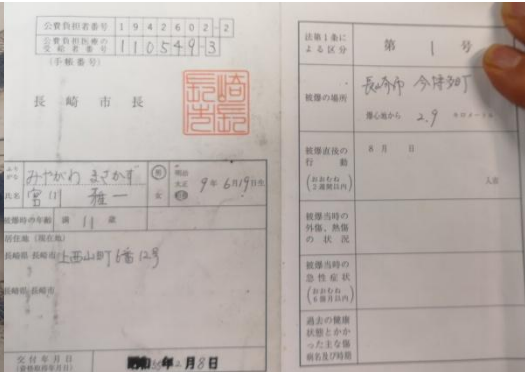


宮川雅一さんが初めて語る 私の被爆体験と戦後の改革



S9 戦前最後のくunchi (実家)



S23 戦後最初のくunchi (同左)

原爆が投下された時、私は11歳。今博多町（爆心地から2.9km）の自宅前で被爆しました。

白いフラッシュのようにピカッと光ったと思ったら、猛烈な轟音と爆風が来て店の事務所に急いで飛び込みました。それから10日ほどして、父が自転車で曳くりヤカーに所帯道具を載せ、爆心地を通過して時津の知人の家に避難しました。原爆よりもアメリカの進駐軍が長崎に上陸すると聞いてその方が怖かったのを覚えています。

戦後ずっと、被爆者に対する差別や偏見があったため、被爆者手帳を取得したのは長崎市助役として長崎に帰ってきた翌年の昭和55年、被爆から35年後のことでした。

最近、被爆者が次々に亡くなられるのを見て、私も語っておこうと思いました。

◆日時：2022年 **3月13日**（日） **13:30~15:00**

◆会場：浦上キリシタン資料館コミュニティスペース
長崎市平和町11-19 TEL:095-807-5646

◆講演：宮川 雅一（長崎近代化遺産研究会会長）



昭和9年(1934)長崎市の老舗の酒類・食料品店に生まれる。勝山国民学校・新制長崎中学校・長崎東高等学校卒。昭和32年(1957)東大法学部卒業後、自治庁(現・総務省)に入る。以来、自治省(現・総務省)・大蔵省(現・財務省)・公営企業金融公庫(現・地方公共団体金融機構)・福岡・滋賀・愛媛・香川各県庁に勤務。昭和54年(1979)(財)日本都市センター研究室長から長崎市助役に就任。昭和61年(1986)助役を退職し、長崎都市経営研究所を設立。長崎史談会会長、長崎釈尊鑽仰会会長、長崎近代化遺産研究会会長、唐寺研究会代表幹事を経て現在いずれの会も顧問。長崎聖福寺修復協力会世話人代表、長崎ちびっ子くunchi実行委員会会長、出雲大社長崎分院・松森天満宮・伊勢宮の各責任役員など。著書に「長崎散策(歌碑・句碑めぐり)」シリーズ、「宮川雅一の郷土史 岡目八目」「高島秋帆」ほか。令和3年度長崎新聞文化章を受賞。

◆参加費：500円 ◆定員：30名 ※新型コロナ感染対策を実施します

◆お申し込み：浦上キリシタン資料館 TEL/FAX：095-807-5646

※お名前とご連絡先をご連絡ください。

◆企画・問い合わせ：NPO法人  アジェンダNOVAながさき

～長崎の文化を考える会～ <https://feature.jp/agenda>

理事長 林田慎一郎 090-7923-7435 linden@ae.wakwak.com